

川越の町に馬車が走った

日本で初めての乗合馬車は、明治二年（一八六九）東京と横浜を結ぶものです。その後、瞬く間に普及し、活況を呈しました。

乗合馬車は、町中を定期的に運行する、現在の路線バスのようなものです。馬一頭か二頭で引き、定員は十人前後のものが中心。中には、定員二十人を超えるものもありました。

現在、川越の乗合馬車に関する資料は、ほとんどありません。記録として、二つの乗合馬車が営業していた記載が、明治三十五年（一九〇二）発行の『埼玉県営業便覧』に残っています。同便覧には、川越町本町（現在の元町一丁目）に「川越上尾間乗合馬車発着所 三成社」。江戸町（現在の大手町）に「馬車営業佐久間軒 佐久間松蔵」と記載があります。また、はしがきには、「上尾、松山、坂戸、越生に通ずる馬車ありて、往復頻繁、衆庶の便を欠くことなし」とも記載があります。このことから、川越から各方面への路線が存在し、頻繁に発着していた様子うかがいがい知れます。



江戸町の佐久間軒の様子

佐久間軒の乗合馬車は、大正八年（一九一九）、開業から三十七年で廃業。それは、明治三十九年（一九〇六）川越電気鉄道の開通で、利用者数が減少したためでした。廃業時に存在した八人乗りの馬車七台は、その役割を終え、姿を消しました。

新型インフルエンザの流行警報について

川越市新型インフルエンザ対策本部長 川越市長 川合善明

10月26日から11月1日までの1週間、市内報告医療機関の平均患者数は33.69人となり、インフルエンザ流行警報の基準値30人を超えました。県内でも、同週の平均患者数が39.39人となりました。今後も警報の継続と、患者数の増加が懸念されます。

11月10日現在、学校などでは集団感染が多発しています。市立診療所など休日や夜間に診療を行う医療機関は、患者が急増し、診察まで長時間待たなければならない状況です。これは、救急の患者や診療する側に、大きな負担となっています。重症化を防ぎ、救急の患者への治療を優先した休日・夜間の診療体制を維持するために、ご協力をお願いします。

重症化が疑われるときはすぐに受診

インフルエンザ症状（発熱、せき、関節痛、鼻水・鼻づまりなど）に加えて、次の症状がある場合は、すみやかに受診してください。

- 胸の痛み、息苦しさなど肺炎が疑われる症状
- 激しい頭痛、持続するおう吐
- 意識がはっきりしない、異常行動をしたり、うわごとを言ったりする
- インフルエンザ症状がいったん軽くなった後、再び発熱・せきが悪化

休日・夜間診療の受診について

休日・夜間に診療する医療機関は、救急の患者に応急処置をする少人数の体制になっています。かかり始めや重症化の疑いが無い場合、水分を十分取って自宅療養しましょう。翌日、かかりつけ医に事前連絡し、マスクを着用して受診してください。

関連情報

- 埼玉県救急医療情報センター・TEL048-824-4199

24時間体制で、身近な医療機関をご案内します。

- 埼玉県小児救急電話相談・TEL # 8000

（ダイヤル回線などの場合＝TEL048-833-7922）

子供の急病時に、家庭での対処法や受診の必要性について、看護師が電話で相談に応じます。

月～土曜日＝午後7時～11時

日曜日、祝・休日、年末年始＝午前9時～午後11時

- 川越市新型インフルエンザワクチン接種相談

（保健所内）・TEL229-4122

月～金曜日、午前8時30分～午後5時

*市ホームページでも、ワクチン接種や自宅療養を行う際の留意点に関する情報を確認できます。

*せきエチケットを守り、手洗い・うがいを徹底して、感染予防にご協力ください。

